

文学部生の

リアルな！学生生活

vol.31

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。



中央大学では、司書課程を履修でき、なかでも私が所属する社会情報学専攻図書館情報学コースの学生は、図書館情報学実習を履修することができません。ここでは、私が2020年夏に経験したこの実習についてお話ししたいと思います。

図書館情報学実習とは

図書館情報学実習は、3・4年次に履修することができ、主に公共図書館において、カウンターでの対応や延滞資料のある利用者への督促作業、新着図書を受け入れといった実務を一通り体験します。期間は2週間程度で、実習の間は実習生も図書館職員の一員として扱われます。私は、多摩市立図書館本館と分館の永山図書館で2週間、実

働10日間の実習に参加しました。

コロナ禍の図書館

対面型授業やサークル活動の制限など、新型コロナウイルスは大学生活にも多大な影響を及ぼしていますが、図書館も例外なくその影響を受けています。感染拡大防止のため、座席数を減らしたり、滞在時間を30分程度に制限したりと、さまざまな対策がとられています。そのような目に見える対策のほかにも、返却された資料を別室に3



座席制限中。×印のある椅子には座れない



図書館情報学実習に臨んだ筆者

日間置いてから返却処理を行って提供したり、電子書籍の提供に向けた準備が急ピッチで進められていたり、利用者からは見えにくいくところでもさまざまな対応に追われていると、職員の方から教えていただきました。これらの対応により、利用者の方の混乱を招いてしまうことも少なくなく、職員の作業量の増大も決して看過できるものではありません。実際、私も返却作業を手伝わせていただきましたが、溜まりに溜まった1日分の資料を、数時間で一気に処理する作業は、私自身が不慣れということを差し引いてもかなり疲れるものでした。

影響が出ているのは、通常業務だけに留まりません。図書館で開催されるおはなし会などのイベントも、やはり

図書館情報学実習に臨んで思うこと —コロナ禍の図書館—

渡邊 葉瑠加

文学部人文社会科学科社会情報学専攻3年
福島県立安積黎明高校出身

新型コロナウイルスの影響により多くが中止になってしまいました。また、学校の夏休みが短くなったことにより、普段であれば自由研究などのために行っている展示を縮小したりと、間接的な影響も出ています。児童を対象とするサービスでは、このようなイベントなどを通じて利用を促すことも多いため、特に大きな影響を受けているようでした。まだ図書館を利用する習慣がついていない、もしくは読書習慣を身につけている途中の児童にとっても、図書館のイベントや夏休みの自由研究は、本を読むきっかけとして非常に重要なものであると考えられます。これらの機会がほとんど無くなってしまう現在の、子どもたちは何をきっかけにして本に触れればいいのか。この現状を肌で感じ、初めて新型



返却作業待ちの資料の山

コロナウイルスの影響がどれだけ恐ろしいものかということを担当に知っていることができたように思います。

実習を経験して

本好きが高じて司書を志した私にとって、図書館での実習はまさに天国のような時間でした。そうは言っても実習ですから立派な授業の一部であり、楽しんでばかりいるわけにもいかないのですが、ついテンションが上がってしまうのも致し方ないことと言えますでしょう。見計らい本（図書館がどの本を受け入れるか実物を見て判断するために送られてくる本）が到着したと聞けば作業室へ飛んでいき、返却本を処理すると聞けば、本の仮置き場に

From the Faculty of Letters



文学部だより



専攻横断型の学びについて

文学部事務室
伊藤 伸之輔

ご父母の皆さま、初めまして。8月1日付で文学部事務室に異動してまいりました伊藤伸之輔と申します。これまで、法学部事務室、附属中学校・高等学校事務室に勤務し、中学生から大学生まで幅広い年代の生徒・学生の教育面でのサポートを担当してきました。文学部事務室ではこれまでの勤務経験を生かし、一人でも多くの学生の支えとなれるよう努めてまいります。

異動してきて間もない私は、まず文学部のカリキュラムを把握することから業務を開始しました。文学部は13もの専攻を設置しており、人文科学、社会科学、自然科学という幅広い領域の専門知識を学ぶことができ

ます。趣味と言えるものがない私ですが、日本史・世界史を題材とした本を読むことが好きで、文学部のカリキュラムを見て「複数の専攻の講義を受講したいな」という印象を受けました。

専攻ごとの学問領域を横断的に学ぶことができるのが、文学部のカリキュラムの特徴の一つです。履修要項掲載のカリキュラムの専攻科目のうち、ゴシック体（太字）で表示された科目は他専攻の学生も履修が可能です。また、文学部には主専攻とは別の新しい専門分野を系統的に学ぶ「副専攻制度」や、専攻の枠を超えたテーマを体系的に学ぶ「モデル履修」など、専攻を横断した学びを促す制度が用意されています。他専攻のカリキュラムを一度じっくり見て、次年度の履修計画を練ってみてはいかがでしょうか。

「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせだ」と言われることがあります。異なる領域の考え方をかけあわせることで、新しい発見や着想を得ることがあります。専攻横断型の学びをすることで、自専攻の学びがさらに深まるきっかけになればと思います。

なっている部屋へ飛んでいき……。もはや個人的な興味の域でしたが、そのように積極的に動いたからこそ多様な経験ができ、現場ならではの話もたくさん伺うことができたのだと思います。

勉強というものは、机上だけで完結するものではありません。私たちの学ぶ図書館情報学のように、実際のサービスと密接に関連するものであればなおさらです。図書館の現状について正

しく認識しなければ、いくらテキストや論文とにらめっこしながら一生懸命に論じたとしても、机上の空論にしかなりえません。現実には悲しいことに、うまくいかないことだらけです。しかし、そのうまくいかない現実と、自分の考えを擦り合わせながら論じていかなければ、意味のある研究にすることは難しいのです。

私は2020年度から、図書館情報学を主に研究する小山先生のゼミに所

属しています。ゼミで研究を進めていくなかでも、理論的な視点ばかりではなく現実の視点も忘れず、図書館の発展に少しでも貢献できるような研究をしたいと考えています。

この短い記事のなかで、私が実習で受けた感動や衝撃をどれだけ伝えることができたかはわかりませんが、私の活動報告を通して少しでも図書館に興味をもつていただけたなら、非常にうれしく思います。